

まなびやまと



大和市イベントキャラクター
ヤマトン

No. 38

令和7（2025）年3月

大和市教育委員会

平和とは何か

「未来を担う私たちにできること」

大和市立深見小学校

未来を担う私たちにできること――

こうした思いのもと、深見小学校6年生は2学期から3学期にかけて、総合的な学習の時間において「平和を担う私たち」とテーマを設定し学習に取り組んできました。9月から10月は戦争や平和を題材とした教材や絵本にふれ、また日本あるいは世界で起きた争いの歴史に目を向け、なぜ人は争いを続けてきたのか想像を巡らせました。そして11月は、語り部2名の方から「広島での原爆投下」や「沖縄県座間味島での集団自決」の講話を聞き、6年生の子どもたちはこれまで学んできた歴史を直に感じ、「なぜ沖縄まで行って集団自決の調査をされたのか」「平和の学習に活かしていきたい」などの質問や感想には「平和のために何ができるのだろうか」という問題意識の高まりが見られました。



翌年2月14日（金）の5時間目、深見小学校で6年生の授業参観は9月から総合的な学習の時間に取り組んできた学習の成果を保



護者の方々に伝える場として設定されました。テーマごとにわかれた子どもたちは、平

和を守り続けるために、「平和で戦争のないことが当たり前ではないということ」を身近な人に伝える「まず戦争や平和に興味をもってもらうこと。そこから何かが変わる」「現地でボランティアができないから募金活動に取り組む」等、今の私にできることを発表しました。授業参観後、ある保護者の方は「みなさんの発表がきっかけで、改めて平和について考える時間を過ごすことができました」と感想を語っていました。

これから「平和とは何か」「未来を担う私たちにできること」という問題意識をもち続け、学び続けてほしいと思います。

平和学習会

「平和のためにできること」

大和市立草柳小学校

令和7年2月18日（火）の1・2時間目、草柳小学校6年生を対象に、平

和学習が行われました。学習の前半は、戦乱と干ばつの地・アフガニスタンにおいて行われた、医師・中村哲氏による水路建設の当時の様子について、映像「アフガニスタン 水路が運ぶ恵みと平和」を視聴し学びました。その後、語り部の熊谷さん（大和市出身）から、農家の家に生まれたが、お米がなくて大根やさつまいもを食べ、いつもお腹がすいて栄養状態が悪かったこと等、戦時中から戦後にかけて貧しい暮らしが続いたという話を聞きました。特に、文房具や着るもの等のモノがなく、学校は裸足で通ったというエピソードには、子どもたちは「えー!」と信じられないといった表情で驚いていました。

後半は、日本国憲法の前文に謳われている平和の大切さについて学び、グループワークを通して「なぜ戦争になるのか」について考えました。

中村哲氏による人道支援や戦時中の暮らしを体験した熊谷さんの「平和のありがたさ」という言葉、そしてグループワークでの意見交流等を通して、子どもたちは平和の大切さや尊さについて考えることができました。



グループワークでの意見交流等を通して、子どもたちは平和の大切さや尊さについて考えることができました。

日本体育大学体操部が来校

～体操の魅力を実感！～
大和市立西鶴間小学校

令和7年2月6日（木）、日本体育大学体操部が西鶴間小学校を訪問しました。この取り組みは学校法人日本体育大学との連携協力協定による交流事業であり、「日本体育大学体操部の演技鑑賞を通して、体操の素晴らしさに触れるとともに体育への興味をもたせる」「体操部からの直接指導を受けることで、安全に楽しくすすんで体育の授業に臨む」という目的のもと、西鶴間小学校と日体大体操部との交流が行われました。



午前は、全学年の児童が日体大体操部による演技披露を鑑賞しました。手具や器具を使用しないで体の各部位を動かす「徒手体操」や、様々な体操を組み合わせた「ジミックス（Gymnastics）」を音楽に合わせて演技し、途中に繰り広げられたバク転や組体操など数々の大技に子どもたちは大歓声をあげ、日体大体操部の演技に魅了されていました。

午後は、5年生の児童が日体大体操部の皆さんからマツト運動の実技指導を受けました。側方倒立回転の技の習得を目標とし、両手をついてマツトを飛び越える動きから、「手・手・足・足」と体を回転し着地するまでの一連の動きなどを教わり、子どもたちは技の完成度があがっているのを実感していました。

授業の終盤では、子どもたちが挑戦している技のコツについて、日体大体操部の皆さんから実演を交えながら優しく教えてもらい、さらに「上手になったね！」とたくさん褒められ、忘れられない時間になりました。

「収穫祭」の開催

～生徒の「やりたい！」が契機に～
大和市立引地台中学校・分教室

令和6年11月16日（土）、引地台中学校・分教室において「収穫祭」が行われ、市内小中学校の先生方をはじめ地域に住む方々など多くの人が現地を訪れました。分教室入口前の通路には野菜の販売コーナーが、会場の各階等にはお食事処やクラフト体験・ゲーム等のコーナー、探究の成果を紹介した壁新聞が掲示されたコーナーなどがあり、訪れた人を楽しませる工夫が数多く見られました。

分教室に通う生徒たちは収穫祭に向けて「販売用の野菜作り」「食堂オーブンに向けた料理研究」「バンド練習」と6月から準備に取りかかり、さ

らに夏季休業前からは「物販コーナーの商品制作」もあわせて始めました。そして彼らの数ヶ月間かけて探究してき



いたものが、この日成果として発揮されました。例えば、会場2階のお食事処でもちもちのドーナツを販売する生徒は「もちもちの食感を出すために研究を積み重ねました」と語り、完成品に至る研究過程を丁寧に記録し成果として壁新聞にまとめられていました。

吹奏楽部による記念演奏

～引地台小開校40周年を祝して～
大和市立引地台中学校

令和6年6月22日、大和市立引地台中学校では開校40周年を記念し、同校体育館で記念式典が開催され、来賓及び全校児童等、多くの方々が参加しました。

式典では、大和市立引地台中学校吹奏楽部による記念演奏があり、バラエティ豊かな曲目が披露されました。生徒たちはこれまで練習を積み重ねてきた演奏を繰り広げ、参加者は美しい音色に聞き入っていました。



「ジャンボリズムキー」「Bling-Bong-Bong-Born」の演奏が始まると、ステージ上で踊る生徒に合わせて子どもたちも踊ったり歌ったりと大興奮でした。演奏後のアンコールはもちろん、この2曲でした。

同吹奏楽部は、今後もさまざまな活動を展開し、音楽の魅力を発信していきます。

よりよい未来の設計図

～総合的な学習の時間を通して～

大和市立上和田小学校

令和7年2月14日（金）、上和田小学校体育館で、6年生の授業参観が行われました。6年生の子どもたちは総合的な学習の時間に、「ごみのポイ捨て」「海洋汚染」「SDGs」「オーバートーリズム」「戦争」など地球上で起こる様々な問題の中から自分の興味ある内容を選び、図書やインターネットをはじめ、さらに現地調査や取材などを行うなど、丁寧に調べてきました。授業参観は、総合的な学習の時間に取り組んできた学習の成果を保護者の方々に伝える場として設定されました。

当日の発表はブース形式にわかれ、会場にはおよそ10箇所のブースが設置されました。子どもたちは、Chromebookで作成したスライドや手作りポスター等を使用して、聞きに來られた方々に発表をしました。子どもたちの発表は、「①なぜこのテーマを選んだのか」「②問題提起」「③解決に向けて」「④自分なりの見解や感想」という4項目を中心に構成されており、参観していた保護者からは「ずいぶん難しい内容をやっているね」「こんなに立派な発表ができるんだ」などの感想の声があり、子どもたちの



発表内容にとっても感心している様子が見られました。それもそのはず、子どもたちは一年間かけて、自分の選択したテーマについて探

究を積み重ね、今回の発表に至っているのです。また探究の途中には中間発表が行われ、自分の発表に対して第三者から感想や意見をもらったり、他のグループの発表から新たな視点を取り入れたりするなど、探究中の取り組みに意味を見出すことができたということです。さらに、自分で探究テーマを決めて取り組んできたこともあり、子どもたちの探究動機ははっきりしており、結果として充実した発表内容へと仕上がり表現できたのでした。学習の発表会後、6年生全員による合奏が披露され、和やかな雰囲気の中で、小学校最後の授業参観が終わりました。

探究は、問いから新たな問いがうまれ学びは続いていきます。今回の学習体験を大切にし、これからも興味をもち学び続けてほしいと思います。

一泊二日の宿泊行事

～このまさわキャンプ場～

大和市立上和田中学校

令和6年9月4日（水）から5日（木）にかけて、上和田中学校2年生は、このまさわキャンプ場（相模原市緑区）で、一泊二日の宿泊行事に参加しました。このキャンプ場は道志川沿いに位置し、四季折々の自然豊かな表情を見せます。

生徒たちは、ニジマスつかみ取りや野外炊事、キャンプファイヤー、ハイキングなど、大自然の中で、仲間と助け合いながら日常生活ではなかなか味わうことのできない様々な体験活動に取り組みました。

ニジマスつかみ取り体験では、小川に放流されたニジマスを一人一匹、つかまえるのですが、ニジマスの素早い動きに追いつけず、またニジマスをつかんだ時のぬめりに驚くなど、あちらこちらで笑いが絶えませんでした。つかまえたニジマスは夕食でいただくことに。そして、つかみ取りの延長で川遊びが始まり、川の水は冷たく、暑さが和らぎました。



その後は野外炊事となり、ニジマスをさばいたり、火をおこしたり、炊飯の準備をしたりするなど、それぞれの役割にわかれていました。数時間前につかまえたニジマスが食卓に並び、自然の恵みのおかげで私たちは生きることができると実感し、感謝しながら皆で美味しくいただきました。

少しずつ陽が沈み、辺りも暗くなってきました。キャンプファイヤーでは実行委員がエールマスターを担い、レクやスタンツ、歌などを進めました。練習を重ねて本番を迎えた実行委員の生徒たちは、途中で進行が途切れそうになった時も皆で協力して乗り切り、大成功で終わることができました。

翌日はハイキングでした。大自然の中を歩くことを目的としたレクリエーション活動で、皆で景色や景観を楽しみながら自然を満喫しました。一泊二日の宿泊行事を通して、生徒たちは日常とは異なる生活環境の中で自然に触れるとともに、集団生活のあり方や人間関係づくりなどについて学ぶことができました。

おらが学校

「地域を担う未来の人材を育てる」
大和市立下福田小学校

本校では、児童の成長に「学校」「家庭」「地域」それぞれが当事者意識を持って支えること、児童が成長し学ぶ当事者としての意識を持って育っていくことを大切にしています。令和6年度は、「課題解決力・自治力を発揮できる子」「考えを深め、いきいきと表現できる児童の育成」を重点目標として、教職員が一丸となって教育活動を行っています。

【令和6年度 各学年の取り組み】

＜1・2年生＞ 学校探検やおもちゃづくりなど、生活科を中心に互いに交流しました。自分たちが栽培・収穫した野菜（一年生はさつまいも、二年生はトウモロコシ）を調理し、互いの学年を招待してパーティも開催しました。年間を通して交流することで、相手を思いやりながら楽しく関わり合う力が育ってきました。

＜3年生＞ 「むかしからつたわるもの」をテーマに、調べ学習に取り組みしました。「青海波（せいはいは）」「矢絰（やがすり）」などの伝統文様やお祭りについて調べることで、日本の伝統文化についての関心が高まりました。運動会では、各自が好きなデザインを施した鳴子を持って、「よさこい」を踊

りました。

＜4年生＞

「総合的な学習の時間」に、福祉について学びました。「車いすバスケット」「デフサッカー」などスポーツを手掛かりとした体験型講演会、視覚や聴覚に障がいを持つ方の日常生活に関する講話など、様々な場を経験し、「皆が幸せに生活するために必要なこと」について考えを深めました。

＜5年生＞

「みんなで仲良くキャンプを楽しもう」をテーマに、「宿泊移動教室」に取り組みしました。児童の自主性・主体性を重視し、準備や当日の進行は学級を越えて編成された「係」を中心に進めました。実施後の児童の感想には「協力して準備でき最高に楽しかった」「キャンプは大成りだった」など、充実感や達成感が溢れていました。

＜6年生＞

「キャリアパスポート」を活用し「職業」について考えました。学区を歩き、世の中には様々な職業があるということを再確認したり、保護者による職業講話を聞いたりすることを通して、将来の自分の姿や就きたい職業について思いを巡らせました。

＜特別支援学級＞

年間を通して全学年一緒にリトミックや工作に取り組みしました。折り染めや切り紙など、互いに教え合いながら季節に合わせた飾りを作り「こすもすギャラリ」として教室や校長室前の廊下を飾りました。

プロロボ大会に参加

（冬のおもしろ科学館2024）

大和市立渋谷中学校

令和6年12月14日、大和市文化創造拠点シリウス内において、大和市教育委員会教育研究所主催「冬のおもしろ科学館2024」（以下「おもしろ科学館」とする）が開催されました。「おもしろ科学館」は、市内小中学生を対象に理科に対する興味・関心を育むという目的で毎年夏と冬に開催されるイベントです。また「おもしろ科学館」の他にも「子ども科学教室」を企画し、科学の不思議や楽しさ等を体験できる教室を開催しています。

さて、今回の「おもしろ科学館」は事前に参加者を募る体験ブースに加え、当日予約なしで参加できるブースも準備し、大人も含む総勢409名の方々が参加しました。「プログラミングカーを走らせよう！」のブースでは、午後のイベントとしてプロロボ大会を開催しました。機器「アーテックロボ2.0」を使用

学校に通う生徒11名。なかでも、大和市立渋谷中学校のパソコン部はこの大会を目標に活動に励み、大会前日もロボがコースにに合わせて動くか再確認しながらプログラミングの調整を図る等、大会に対する部の意気込みが感じられました。

プロロボ大会の会場には30名ほどの観客や関係者が集まりました。出場者の持ち時間は3分で、時間内のプログラミング修正・再チャレンジをしてもよいというルールでした。観客も手に汗握りながらロボの行方を見つめ、ロボが徐々にゴールに近づくと「よし、よし！」と歓声が上がリ、コースラインを割ると「もう一回！」と声援が上がりました。タイムアップの合図に悔しさの表情を見せる生徒に、会場から温かい拍手が送られました。

大会後、「このような機会を準備してくださりありがとうございました」と語るパソコン部部長の向井琥珀さんの声は、創部2年目と駆け出しの部が皆で同じ目標に向かって活動できたという達成感に溢れていました。

学校教育だより「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業等を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

（お問合せ先）大和市教育委員会
教育研究所 260-15213

